学校番号	1004

令和８年度　数学科

教科	数学科	科目	数学Ⅲ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	数学Ⅲ　（数研出版）						
副教材等	新課程　教科書傍用　サクシード数学Ⅲ＋C〔ベクトル,複素数平面,式と曲線〕(数研出版) ニューアクション LEGEND 数学Ⅲ 数学Ⅲ・C　重要事項完全習得編（河合出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。
・自宅学習における課題は、定期的に提出があります。計画的に取り組んでください。
・取り組む際はただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
極限，微分法及び積分法について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
【思考力、判断力、表現力等】
事象を数学的に考察する能力を培い，解答するために必要な思考力および判断力をつける。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	極限，微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し，極限について考察したり，関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し,数学的に考察したりする力,いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し,事象を数学的に考察したり,問題解決の過程や結果を振り返って統合的･発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度,粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価･改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章 関数	1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数	a:分数関数や無理関数の定義や性質を理解し,グラフや式を利用して，方程式や不等式を解くことができる。また、合成関数,無理関数の定義や性質を理解し,求めることができる。 b:分数関数や無理関数の式とグラフを関連づけて考察することができる。また、合成関数や逆関数などの関数の概念を考察することができる。 c:分数関数や無理関数の性質を調べようとする。合成関数，逆関数などの関数の概念の理解を深めようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 観察	提出課題 観察
	第2章 極限	第1節 数列の極限 1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数	a:無限数列と，その収束や発散の関連について理解し，数列の極限を判定することができる。また、無限級数と，その収束や発散の関連について理解し,収束や発散を判定したり，それを利用していろいろな事象の極限を調べることができる。 b:無限数列の収束や発散について考察することができる。また、無限等比級数の収束や発散について考察することができる。 c:無限数列の極限を調べたり，漸化式で表された数列の極限を調べるのに活用しようとする。また、無限等比級数の極限を調べたり，それをいろいろな事象の考察に活用しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 観察	提出課題 観察

2学期	第2章 極限	第2節 関数の極限 4. 関数の極限 5. 三角関数の極限 6. 関数の連続性	a:いろいろな関数値の極限の様子や，連続関数の性質について理解し,極限の様子を調べたり,連続性を調べたりすることができる。 b:関数の連続について，関数値の極限を用いて考察することができる。 c:いろいろな関数値の極限を調べたり，それを関数の連続性の概念の理解に活用しようとする。			
	第4章 微分法の応用	第1節 導関数の応用 1. 接線と法線 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数の最大と最小 5. 関数のグラフ 6. 方程式,不等式への応用 第2節 速度と近似式 7. 速度と加速度 8. 近似式	a:導関数の符号と関数の増減の関係を理解し，いろいろな関数のグラフの増減や，最大値・最小値を求めたりすることができる。また、2 次導関数とグラフとの関係を理解し,2 次導関数を利用して，グラフの概形をかくことができる。 b:微分からグラフの増減や,いろいろな事象の考察をすることができる。また、2 次導関数を利用して，グラフの概形を考察することができる。 c:微分を利用して，グラフやいろいろな事象の考察に活用しようとする。また、2 次導関数を利用して，グラフの凹凸を調べ，グラフの概形について考察しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 観察	提出課題 観察

3学期	第5章 積分法	第1節 不定積分 1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法 3. 部分積分法 4. いろいろな関数の不定積分 第2節 定積分 5. 定積分とその基本性質 6. 定積分の置換積分法 7. 定積分の部分積分法	a:微分法と積分法の関係を理解している。また、定積分や区分求積法の意味を理解している。分数関数や，指数関数，三角関数などのいろいろな関数について，その不定積分を求めることができる。また、不定積分や，置換積分，部分積分を利用して，いろいろな関数について，定積分をも求めることができる。 b:微分と積分との関係を理解し，いろいろな関数の不定積分について考察することができる。また、いろいろな関数について，その定積分を考察することができる。 c:不定積分の意味を理解し，いろいろな関数の不定積分を考えようとする。また、いろいろな関数について，その定積分を考えようとする。			
	第6章 積分法の応用	1. 面積 2. 体積 3. 曲線の長さ 4. 速度と道のり	a:定積分と面積，体積，曲線の長さの関係を理解し，いろいろな関数で囲まれた図形の面積や，回転体の体積，曲線の長さをもとめることできる。 b:いろいろな関数で囲まれた図形の面積や，回転体の体積，曲線の長さについて考察することができる。 c:定積分を用いて，いろいろな関数で囲まれた図形の面積，回転体の体積や曲線の長さについて考察しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 観察	提出課題 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度